

ありがとうデラウェア州、そしてこれからもよろしく！

ニューヨーク事務所

2012 年 1 月末に、宮城県の訪問団が姉妹県州関係にあるデラウェア州で経済活動事業を実施するため訪米した。今回ニューヨーク事務所では、宮城県からの活動支援依頼を受けて訪問団に随行したので、その内容を紹介したい。

1 交流の歴史と訪問団の目的

宮城県とデラウェア州の姉妹都市交流は、1990 年に日本の自治体との国際交流相手を模索していたデラウェア州に対し、外務省を通じて宮城県が紹介されたことにはじまる。その後両者間で職員交流や訪問団派遣を行った後、1997 年にデラウェア州知事が宮城県へ訪問、姉妹県州締結に関する議定書に署名を行った。その後 10 年を経て、両者の国際交流は経済交流に発展（2007 年）し、2011 年 2 月にデラウェア州で初の宮城県による県産品（酒・仙台味噌）販路拡大イベントを行ったことにより、改めて現在の経済交流を主体とした姉妹県州関係が構築された。

しかし、昨年 2 月のイベントの約 1 ヶ月後に東日本大震災が発生し、経済交流は中断を余儀なくされた。そうした中、デラウェア州政府は宮城県のために大規模な義援活動を展開し、100,000 ドル以上の義援金を集め寄付するなど、多大な支援がなされた。

今回の訪問は震災により停滞している経済交流の再開及び更なる進展を狙うとともに、州政府から受けた支援に対する感謝の意を表明するという二つの大きな目的を帯びたものであった。

2 経済交流の新たなチャレンジ

～仙台味噌の販路開拓に向けたプロモーションイベント～

会場：Dogfish Head Brewing & Eats

本イベントは、地元で非常に人気のある地ビールメーカー直営店 Dogfish Head Brewing & Eats において、同社ビールにマッチする仙台味噌料理を提供しながら、仙台味噌のいろはについて担当職員からプレゼンを行い、仙台味噌の知名度向上を目指した PR を行ったものである。また、各料理の評価やコメントについてアンケートを行い、現地における仙台味噌に対する反応や、今後の販路拡大の可能性などについての調査も併せて実施された。

アンケート内容は、集計後ビール会社と共有する予定で、今後継続的な使用を検討してもらうための材料となる。

実際に提供された 4 種類の料理



①Miso soup



②Miso chili duck



③Bibb lettuce salad



④Lamb chop lollipops
With Miso glaze

仙台味噌のプレゼンでは、製法や歴史などを中心に説明し、仙台味噌が他の味噌とは違い高級味噌であることを強調した。そうした中で、味噌の味の重要な要素である“旨み”について触れた際に、“旨み”とはどのようなものかを説明できる参加者がいたことは、訪問団を大いに驚かせていた。こうした“グルメ”な客層が相手であったことは、仙台味噌ブランドと他ブランドとの差別化を図ることにより、十分購入に結びつく可能性があるという確信につながるものであったようだ（販路拡大の重要なポイントは、価格に見合う価値があるかどうかとのこと）。



イベント会場の様子



イベントのポスター



味噌のプレゼンを行う職員

今回の訪問は、デラウェア州の人々に対し東日本大震災後の支援への感謝を伝えることも一つの大きな目的となっていたことから、宮城県知事のビデオメッセージの放映が行われた。併せて、東日本大震災の被害と復興状況及び県の魅力についてのプレゼンテーションや、3月の震災発生時に宮城県気仙沼市で ALT として勤務していたデラウェア州出身の元 JET 青年（ジェシカ・ベセカーさん：昨秋帰国）を特別ゲストとして招き、震災時の

状況や宮城の魅力にかかる自らの経験に基づいたスピーチが行われた。

仙台味噌及び震災にかかる質疑応答では、仙台味噌について具体的な質問が相次ぐなど、参加者の興味を手ごたえとして感じることができた結果となっていた。しかし一方で、震災関係において宮城への福島第一原発による放射能の影響について懸念する質問があがるなど、未だに震災による影響を心配している人々が多いことが伺えた。



元 JET 青年のベセカーさん

3 震災寄付金協力者への御礼及び復興状況等報告会

会場：①アッポクイニミンク高校、②ミドルタウン高校、③ドーバー高校

州政府で設置したファンドレイジングの他に、学校等を中心とした地域住民により募金活動が積極的に行われたことから、それらの支援に対する謝意を示すと共に、東日本大震災の状況と復興状況の報告、更には宮城の魅力の再発信を行うために上記3高校への訪問がなされた。

各校での報告会では、宮城県知事の御礼のビデオメッセージが放映されたほか、担当職員からの東日本大震災の状況報告（デラウェア州からの支援内容、義援金の用途なども含む）、宮城の魅力についてのプレゼンテーション、そしてデラウェア州政府の担当職員（Dana Roharbough 氏:2011 年度の CLAIR フェロシッププログラム参加者）からの宮城・デラウェア間の交流の歴史や震災直後の州政府をはじめとした義援活動についてのプレゼンテーションがなされた。

生徒や教師、参加者からは「福島第一原子力発電所による影響」、「県で最重要課題となっている復興の取組み」、「仙台味噌に関する詳細」などについて質問があったほか、「自分も交流事業の一環で宮城を是非とも訪れたい」という意見もあるなど、宮城県のことを姉妹都市として非常に真剣に考えてくれていることが随所に伺え、草の根レベルでも、良好な両県州関係が構築できていると感じさせるものだった。

ドーバー高校で開催された報告会では、ドーバー市長も駆けつけ、被災地の宮城に対する哀悼の念を述べた。

4 所感

今回の宮城県訪問団随行を通し改めて感じたことは、震災にも関わらず、宮城・デラウェアの関係は非常に良好であるということである。特に 2008 年から経済交流へと方向転換を図りその後 5 年目、まいてきた種が少しずつ芽を出してきているように感じた。

ー大イベントであった仙台味噌 PR イベントでは、Dogfish Head 直営店の常連客に大変好評だった。今後同店で継続的に仙台味噌料理を提供してもらうことと併せて、もう一步進んで味噌の販路拡大を図る上での情報発信のパートナーとして同社と引続きコラボできる関係構築を期待したい。

今後もデラウェア州との姉妹県州関係が更に良好なものへ発展し、次の経済事業等に展開されることを切に願う。



ドーバー市長と共に地元新聞の一面に掲載された

(伊藤所長補佐 宮城県派遣)

